

第4回とちぎヤングの会講演会

第4回テーマ：「My Way～1型糖尿病と生きる～」

日時：2025年3月30日(日) 10:00～12:10

会場：ホテルマイステイズ宇都宮 11階 グランドボールルーム A+B

.....

【プログラム】

開会の辞：小山イーストクリニック 院長 鈴木 國弘先生

会長挨拶：獨協医科大学内科学（内分泌代謝） 教授 薄井 勲先生

基調講演

座長：小山イーストクリニック 院長 鈴木 國弘先生

演者：フリーカメラマン 太田 晃司さん

「あきらめない心 相棒と呼べるようになった日」

特別講演

座長：小山イーストクリニック 名誉院長 大橋 博先生

演者：国立国際医療研究センター病院 糖尿病内分泌代謝科 小谷 紀子先生

「Automated Insulin Delivery System－生活の中にとけ込むインスリンポンプの使い方－」

ディスカッション

司会：小山イーストクリニック 名誉院長 大橋 博先生

ディスカッサー：国立国際医療研究センター病院 糖尿病内分泌代謝科 小谷 紀子先生

フリーカメラマン 太田 晃司様

小山イーストクリニック 院長 鈴木 國弘先生

「会場の皆さんと考える1型糖尿病」

閉会の辞：ふじた糖尿病内分泌内科クリニック 院長 藤田 延也先生

.....

第4回とちぎヤングの会講演会は前回に引き続き、ホテルマイステイズ宇都宮にて、対面形式で開催されました。

講演会当日は、予定された定員100名を上回る108名の方にご参加いただきました。

講演会会場受付には、糖尿病に関連した資料の展示を行いました。



開会の辞

鈴木 國弘先生（小山イーストクリニック 院長）より開会の辞をいただきました。本講演会のプログラムについても説明されました。

会長挨拶

続いて、薄井 勲先生（とちぎヤングの会会長、獨協医科大学 内科学（内分泌代謝）教授）より会長の挨拶をいただきました。とちぎヤングの会の成り立ちやこれまで活動などについて紹介いただきました。



基調講演

基調講演は、鈴木 國弘先生(小山イーストクリニック 院長)を座長に、フリーカメラマン太田 晃司さんより「あきらめない心 相棒と呼べるようになった日」とのタイトルでご講演いただきました。



太田さんは、1歳になる前に1型糖尿病を発症しました。糖尿病と共に生きてきたご自身の経験についてお話されました。



ご講演の内容としては、

- 幼少期に1型糖尿病を発症した時のこと、その時の家族の支え
- 学校生活で経験した血糖管理の苦労と、周囲人々の理解
- ボクシングに出会い、プロボクサーに挑戦したこと
- プロボクサーを断念し、プロの写真家となると決めたこととその経緯
- 写真撮影時の血糖管理で心掛けていること
- 1型糖尿病との向き合い方に変化があったこと、周囲のひとへの病気の打ち明け方などについて、ご自身で撮られたたくさんの写真とともに語られました。

学生時代には病気を隠したいと思っていた時期もあったものの、現在は「糖尿病を相棒と考え、共に人生を歩んでいる」との言葉が印象的でした。

その後、太田さんのお母さまがビデオにて、太田さんのこれまでの半生を改めて紹介してくださいました。母親の立場で感じたことなど、丁寧に語られるお母さまのメッセージを聞いて、会場には涙を流す方もたくさんいらっしゃいました。

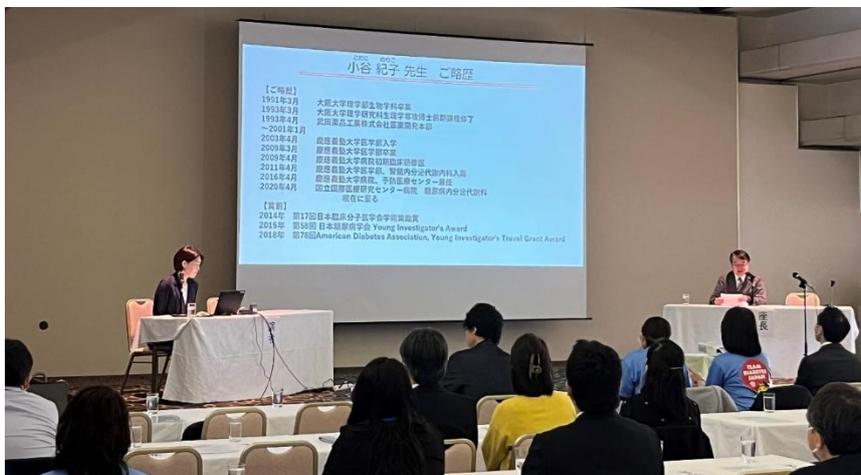


講演後には太田さんに対し、質問の時間が設けられました。会場からは、血糖測定の方法や、自己注射への恐怖の克服法について質問がありました。太田さんには、自身の経験を交えて大変真摯にお答えいただきました。



特別講演

特別講演は、大橋博先生(小山イーストクリニック 名誉院長)を座長に、国立国際医療研究センター病院糖尿病内分泌代謝科の小谷紀子先生から、「Automated Insulin Delivery System－生活の中にとけ込むインスリンポンプの使い方－」とのタイトルでお話いただきました。



小谷先生は、ご自身も出産後の28歳で1型糖尿病を発症されています。別のお仕事をお持ちでしたが、糖尿病発症後に一念発起し、医学部に入学されました。現在は糖尿病専門医として日常の診療に加え、多くの講演会活動等でご活躍です。

今回の講演会では「最新のインスリンポンプ治療」がテーマでしたが、それを超えてたくさんのお話をいただきました。

ご講演の内容は、

- 先生ご自身の1型糖尿病発症時のご経験と当時のご苦勞。その後の糖尿病専門医としての活動の紹介。
- 1型糖尿病患者さんの周囲には、スティグマ（いわれなき差別や困難）をはじめ、解決すべき問題が山積していること
- それらの解決のためには、「患者さんからの声」を聞かせていただくことが大切であること。また、そのために国内外で様々な企画や活動が行われていること。



糖尿病に対する誤った考え、ライフステージ毎の課題、医療費など、糖尿病をもちながら生活することは、医療者が想像する以上に患者さんの心の負担になっています。しかしながら、診療時間の中で、十分に日々の悩みや生活の中で困っていることについて、その声を聞くことが出来ているでしょうか。

Nothing about us without us 私たち抜きで私たちのことを決めないで

このことを軸に、糖尿病をもちながら生活する人々と医療者が双方向に意見を交わし、共に課題に取り組む、今日のこの会場がそういう場になることを心から願っています。



- 食事療法を苦痛なこととしてとらえるのではなく、糖尿病があっても食事を美味しく楽しく食べて欲しい。食事の自由度を上げる方法のひとつとして、グルコースセンサと連動したインスリンポンプ（AHCL など）を使用するという方法があること。
- 高齢者、小児、妊娠中など、異なる状況では、インスリン療法にコツがある。その場合にも、最新のインスリンポンプが力を発揮すること。

インスリンポンプの進化



Automated insulin delivery (AID) / Advanced Hybrid Closed Loop (AHCL) エーアイディ

2023年12月

MiniMed™ 780G system with SmartGuard™ technology.

Our most advanced insulin pump system with SmartGuard™ automation for self-adjust delivery with autocorrection dosing. [Ⓞ]

Now with Guardian™ 4 sensor.

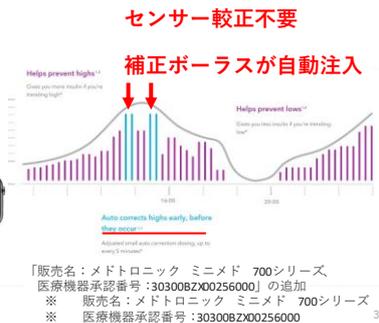
AHCL (SmartGuard™)

- ・7歳以上
- ・TDD8-250U/day

目標グルコース値

- 120mg/dl
- 110mg/dl
- 100mg/dl**

医師の判断により妊娠期間中もスマートガード自動注入機能を継続することができます。



•最新のインスリンポンプは極めて有用。しかし一方で、必要とする患者さんすべてにそれらが届いていない、また最新のポンプ治療は医療費が高いなど解決すべき問題が残っている。環境整備が必要であること。

など、多岐にわたるものでした。

医師と患者の両方の立場から語られる小谷先生のご講演は、優しい言葉を用いながら、強い説得力を持つものでした。

小谷先生の講演後には会場の皆さんから、小児へのインスリンポンプ導入時の不安、運動時の血糖管理、手術時の対応、患者としての葛藤などたくさんの質問をいただきました。小谷先生には一つ一つの質問に、大変丁寧にお答えいただきました。

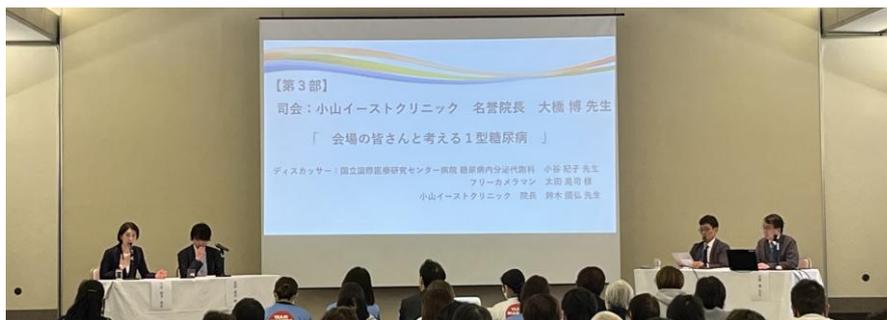
ディスカッション

ディスカッションパートでは、司会に大橋先生、ディスカッサーとして小谷先生、太田さん、鈴木先生が登壇し、参加の皆さんからの質問や意見に対し回答いただきました。

いただいた質問やご意見は

- 1型糖尿病の診断時、差別的な扱いを受けたことはあったか
 - 血糖測定器の Bluetooth 接続の際に困っていることがある
 - 患者さんが正しい医療情報を得るためには、なにを情報源としたらよいのか
 - 患者さん同士のコミュニケーションが重要であると考えている。とちぎヤングの会で、患者さん同士の交流会の場を作ってもらえないか
 - 病院では糖尿病専門医の役割と他の診療科との連携はどのようになっているのか
- など様々なものでした。

異なる立場からのとても貴重な‘声’であり、大変活発なディスカッションになりました。



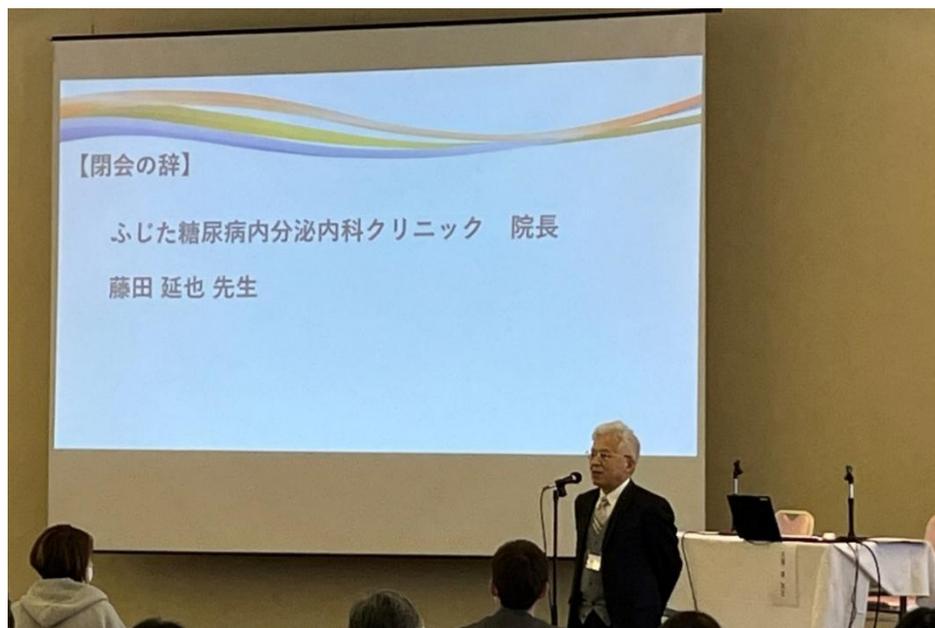
小谷先生は様々な国際的なコミュニティーでも活動をされています。今回の講演会でも Advocacy 活動を行う #dedoc^o という Diabetes Community や、Children with Diabetes (CWD) という NPO の紹介もしていただきました。

CWD は1型糖尿病とともに歩む人々に対し CWD Journey Award としてメダルの授与活動を行っています。日本でこのメダルを最初に授与されたのが、小谷先生です。今回の講演会では、太田さんに対し25年メダルが小谷先生から授与されました。



閉会の辞

最後に、次回の当番世話人であるふじた糖尿病内分泌内科クリニック院長 藤田延也先生より閉会の辞をいただきました。今回の総括と次回講演会への期待についてもお話いただきました。



講演会の後には、参加者の方々と記念撮影をしました。(写真の撮影とホームページへの掲載にご承諾をいただいた方のみです)



その後軽食を採りながら、小谷先生や太田さんを交えて、自由に歓談いただきました。



ご参加いただきました皆様、素晴らしい時間を有難うございました。
来年もまた、皆様の声を聞かせてください。

文責：

ノボノルディスク 辻田健人

とちぎヤングの会（獨協医科大学） 薄井 勲